

11がときひがの子



修学旅行にタクシーで！

11月5日から1泊2日で、6年生が修学旅行に出かけました。修学旅行は6年間で、子供たちが最も楽しみにしている学校行事の一つです。私も、小・中・高校での修学旅行は、遠い昔になってしまいましたが、当時の記憶は鮮明によみがえってきます。大きさに驚いた奈良の大仏、光りを放つ美しい金閣寺、ライトアップされた神秘的な清水寺と紅葉、旅館での枕投げ、小学生には大金で買った家族の土産など……。

今年度も三河安城駅から「連合（修学旅行用）」の新幹線を利用しました。そして、今年が目玉は、2日目に**ガイド付きジャンボタクシー**で回ることができたことです。

1日目は、奈良公園を中心に、三月堂・二月堂・東大寺・正倉院・興福寺を見学しました。子供たちは、鹿せんべいを購入し、たくさんの鹿と遊ぶことができました。

旅館「にわ」では、おいしい料理に舌鼓を打ち、みんなで仲良く全てを平らげた後、京都駅を散策しました。中でも「空中回廊」は最高に迫力があり、しかも無料です。カメラマンのあさひさんの案内で空中回廊の最高の場所に案内していただきました。東西に延びるこの遊歩道は地上高45m・長さ147mで、途中3箇所に展望所が設置され、横にそびえ立つ「京都タワー」を間近に見ることができます。記憶に残る場所でした。

1日目に歩いた歩数は、26260歩で、本当によく歩いた1日目でした。

2日目は**9人乗りのジャンボタクシー**が旅館まで迎えに来てくれました。ドライバーは、運転歴30年以上で、京都を知り尽くしている松井さん。でも、松井さんでもガイドをするために、京都の歴史や新旧の建造物について今でも常に勉強しているそうです。

清水寺・三十三間堂・二条城・映画村・金閣寺と、今回は渋滞もなく、待ち時間もなく全てがスムーズに進み、どの場所でもあわてることもなく余裕をもって見学できました。それでも、時間に余裕ができて、松井さんのお勧めの**北野天満宮**（学問の神、菅原道真公を祀り、全国天満宮の本社神社で国宝）を追加して見学することができました。

二日間の修学旅行は、雲一つない最高にすばらしい天気でした。夜の散策は少し冷えましたが、全員が全行程をすべて参加し、病気やけがもなく、無事に帰宅することができました。

何より今年は、6人の絆も深く仲良く活動ができました。子供たちは、事前の学習、当日、振り返り学習などを通して、多くのことを学ぶことができました。



1日目奈良の大仏



2日目京都の三十三間堂

常磐東学区の蔵次町は、蔵次川（青木川の支流である小丸川に注いでいる川）の上流に位置する山の中の小集落である。蔵次町には、今でも古くから伝わる伝説や伝統行事が人々の間に脈々と受け継がれている。平家が壇ノ浦で滅亡した一一八五年前後のことであろうか。



蔵次町のどぶろく祭り

蔵次の入口までやってきた。ところが、その一隊が見たものは、道の両側に立つ木の枝から木の枝へと張り巡らされた「くもの糸」であった。「道にくもが糸を張っているように、人間が通ったはずがない」と考えた源氏の一族は、それ以上は追わず、引き返していったという。危ういところで助かった落武者が、そこに住みつき、それが蔵次町の先祖となったという。これが蔵次町に伝わる「くもの糸」伝説である。

また、蔵次町では、毎年十月十五日に熊野神社で秋祭りが行われ、氏子が手作りで醸造したどぶろくを参拜者に振るまうことから別名「どぶろく祭り」と呼ばれている。

同様のお祭りは規模の大きさこそ違ふものの、岐阜県の白川郷、富山県の五箇山でも行われており、いずれも平家ゆかりの地であることが共通している。歴史のある蔵次町にぜひ一度足を運んでいただきたい。



蔵次町に伝わる「くもの糸」伝説とどぶろく祭り

常磐東小教諭 加藤 幸広

は、人間が通ったはずがない」と考えた源氏の一族は、それ以上は追わず、引き返していったという。危ういところで助かった落武者が、そこに住みつき、それが蔵次町の先祖となったという。これが蔵次町に伝わる「くもの糸」伝説である。

ほのぼの
絵手紙
入選!

中日新聞(夕刊)11月6日

長谷川芽依さん

